

A児とその母親の 今を振り返って成長を思う

～A児の成長の記録～



関西女子短期大学附属幼稚園

～A児とその母親の今を振り返って成長を思う～

●はじめに

子どもたちはたくさんの人とかかわりながら、いろいろなことを身につけてくれています。その中で友達の輪に入れない、同じ行動が取れない、行動パターンにこだわりがあるなど、大人の援助を必要とする子どもがいます。私たちはそのような子どもたちとのかかわり方や援助の仕方に日々悩みながら、少しでも成長してもらえたらと試行錯誤しています。そんな中、A児親子との出会いで、教師である私たちがたくさんのことを学ばせて頂くことができました。この貴重な経験をこの機会に発表させて頂きました。

A児親子との出会い

A児親子との出会いは、子育て支援の一環の満3才児を対象とした「親子で遊ぼう」の機会でした。A児は4月当初から言語はなく、座って話を聞くことはできず、たくさんの人が集まると部屋から飛び出し、廊下を走る、手当たりしだいに触る、母親が追いかけると振り払い、嬉しそうに奇声を上げながら逃げまわるといった行動を取っていました。

その行動は4月から丸一年、大きな変化はなく続き、それでも母親は「ただ幼いだけ…」としか捉えていなかったようです。

3歳時クラスに入園

登園は嫌がらないが保育室に入る事がなく、フリー教諭と外で一緒にいたり、職員室で遊んだりしていました。

動物に興味があるので本やカードで気を引きながら、少しでも周りの子どもたちと無理なく関われるようまた保育室から移動する際は、本や紙芝居、カードを持っていくなど、クラス担任はフリー教諭とともに努力していました。その頃は、絵カードを出しても反応はなく、単純な言葉ではっきりと指示を出すほうが良く理解していたように思います。

1学期後半には、時間はかかるものの徐々に自分の身の回りの始末ができたり、保育室から外に飛び出したりすることも少なくなり、落ち着きも見られるようになってきました。

運動会や生活発表会など、行事には一応参加するものの落ち着かず、運動場や舞台を走りまわることが多く、クラス担任があの手この手で気を引きながら参加させているのが現状でした。

保護者は周囲を意識され、クラス担任やフリー教諭に「いじめられていないか。」「A児もみんなと同じ様に参加できるようにしてほしい。」など強く要望されることもしばしばありました。

年中組進級について2学期に話しあう

心理教育相談センターで療育をうけるようになったこともあり、心理士を交え、進級について話し合いを持つことになりました。

来年度は年中組につき、フリー教諭がつけられないことや年少組でのありのままの現状、

注意散漫な様子を正直に伝え、進級がはたしてA君にとって幸せなことであるのか、保護者へ問いかけましたが、保護者は進級を強く希望されました。そしてその後は、進級後のかかわり方を焦点として話し合を持ちました。保護者の了解のもと、心理教育相談センターと家庭、幼稚園との三者の関係を密に持ちながら、A児の保育や支援の方法について、助言を仰ぎながら指導していくこととなりました。

年中組へ進級

保育室の位置、靴箱と全てが変化する環境にA児の戸惑いを予想していましたが、A児は戸惑うことなく、新しいクラスに入ることができました。

進級当初保護者は、新しい担任に細かく様子を聞く事が多く、日々の様子や言葉、保育の内容など質問は増える一方でした。

A児の語彙は随分増え、挨拶や少しの会話も交わすこともできるようになってきました。クラスや近隣の子どもたちと関わりながら過ごすことにも慣れ、自分の気にいった保育場面では参加できるようになりました。

年中組2学期の姿

出来ないことは「出来ない。」と気持ちが伝えられるようになり、進級当初は、クラス担任の手元に並ばせていましたが、この時期から背の順での整列もできるようになり友達と一緒に活動する機会も増えてきました。

言葉がすぐに出ない分、時には手や腕で勢いよくつかみかかるといった姿がみられましたが、それは言葉で表現できない代わりに、友達ともっと関わりたい気持ちの表れだと感じました。クラスの友達もA児にはやさしく関わってくれ、A君のわがままやいたずらもあえて見逃したり、許してくれたりする姿に、クラス担任自身が嬉しくもあり、ほっと癒される気持ちになれた一面でもありました。

入園から2度目の運動会では、昨年と大きく違い、全ての競技、演技に参加することができたその裏には、保護者からの手作り絵カードなど大きな努力の成果が伺えました。

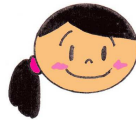
年中組3学期の姿

3学期の生活発表会ではクラス担任も絵カードを作り、保護者と共に日々の練習で活用しました。事前に立つ場所にシールを貼ってA児に場所を知らせておいたことで、劇では与えられた役割から少しハズレそうになっても、自分から場所の移動や変更ができました。合奏では大太鼓を希望し、周りは不安でもありましたが、クラスの友達と一緒にでき、また合唱も歌詞は理解できていませんでしたが、好きな部分だけは元気に歌い、最後まで参加できました。他の園児と変わらないほどの姿に著しい成長を感じた一面でもありました。

母親とのインタビュー



教諭A



教諭B

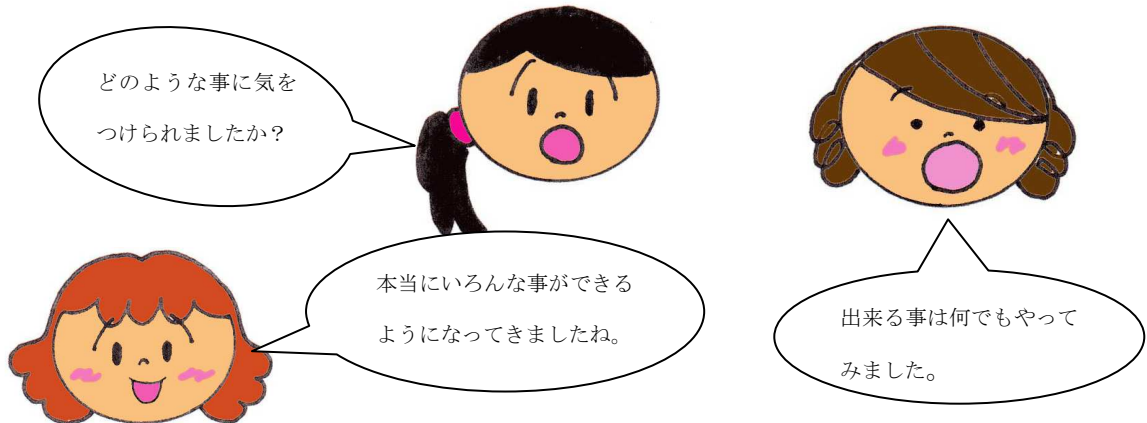


心理士



母親

A 児の目を見張るほどの成長を感じたこの2年余り。その成長の影で、母親の良い意味での変化を感じていました。A 児の成長は、母親の成長…ではないかと感じた私たちは、母親と向き合い、今まで努力されてきたことや心のうちを体験談として、聞かせて頂く機会を得ることができ、最初は戸惑われてはおりましたが、すべてA 児のためと、積極的に質問に応えながら、日々の姿や努力の成果を十分に話して頂きました。

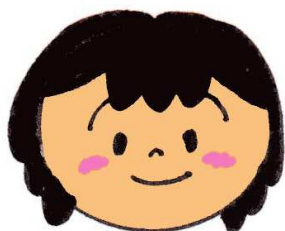


●親子であそぼう（子育て支援）時代では？

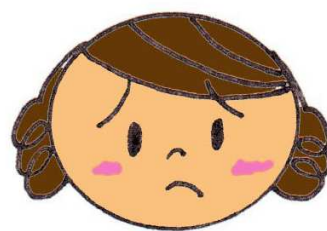
『月1回の参加で外に飛び出すことが多かったが、部屋の中に少しでもいることが出来た時その楽しさをA 児に分かって欲しい思いで、中に入れるようにと努力していた。』

●3歳児、年少組に入園され、心理教育相談センターとの出会いでは？

『心理士の先生から、「6歳位までの子どもの成長には個人差があるものだから6歳まで諦めず頑張りましょう。」の言葉に勇気付けられ、先生の言葉を信じて、日々願いながら、頑張っていこうと決心した。あせる気持ちばかりではあったが、腹をくくって立ち向かった。』



子どもの成長には個人差がありますので焦らず6歳まで頑張りましょう



あせらないで！
まず、やってみよう！

●年少組の夏休み明け 2学期 初めての運動会では？

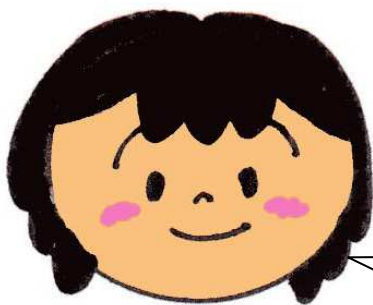
『運動会では、A 児の緊張から参加は不可能であるし、その場から逃げ出すかもしれないなど、予測不能の動きをすることだろうと覚悟していた。しかし園の先生方のチームワークで思った以上に運動会に参加することができ、感謝のみであった。』

●年少組の冬休み明け 3学期 初めての生活発表会では？

『生活発表会での状態は、事実として受け入れないといけないことは分かっている、辛かった。合唱では、歌は歌えないがみんなと一緒に舞台上に立ち、最後に自ら頭を下げる姿に感動した。劇遊び中は不安ばかり、しかし舞台袖や舞台下で先生たちの完璧なフォロー態勢が見えて、その連携プレーに感謝し、感動した。』

●心理士の先生からのサポートや指導方法について。

『心理士の先生に日々の姿や行事、幼稚園での姿を一つ一つ伝えると、その時の A 児の心情や思いを分析して頂けると同時に、母親の気持ちも丁寧に聞いて下さる中で、少しずつ自分の意識が変わってきた。A 児は理解できていることは出来るのだから、出来ることをしっかり伝えて行き、出来ないことや親の願望ばかりを考えないように心がけた。「出来ないのではなくどうして出来ないのだろう。出来ない理由は何だろう。何があれば出来るようになるのだろう。」と A 児のサインをしっかりと見極めるよう促された。生活姿の写真カード、生活リズムカードなど手作りで作った。カードで先の行動を知らせ、分からせておくと意外とスムーズに行動できるようになった。出来たこと、出来なかったことなど、カードを出して反省することも出来るようになった。カードの絵の書き方もポイントがあり、A 児をカードの中心に大きく描くことが大事であることを学んだ。先の場所や事柄を予想させることに写メールをよく利用するようになった。日々の生活でもおおいに活用し、効果を得ることが出来ている。』



何が出来ないのではなく、何があれば出来るようになるのかな？と考えてみましょう。

視覚支援として、生活カードを作り、先に行動を知らせる事で、落ち着いてスムーズに出来るようになっていきます。

●平成 22 年 4 月 4 歳児、年中組への進級時には？

『進級することを理解させるために春休みに年中組学年カラーの赤色リボンを用意し、年少組の桃色リボンはすべて捨て、赤色リボンを制服や持ち物に付け、A 児に意識付けをした。』

●年中組 夏休み明け 2学期、2回目の運動会では？

『運動会ではプログラム順に絵カードを作り、A 児に家庭で進行順や参加競技の説明、お客さんの場所や声など絵カードを見ながら予習できたことがよかった。』

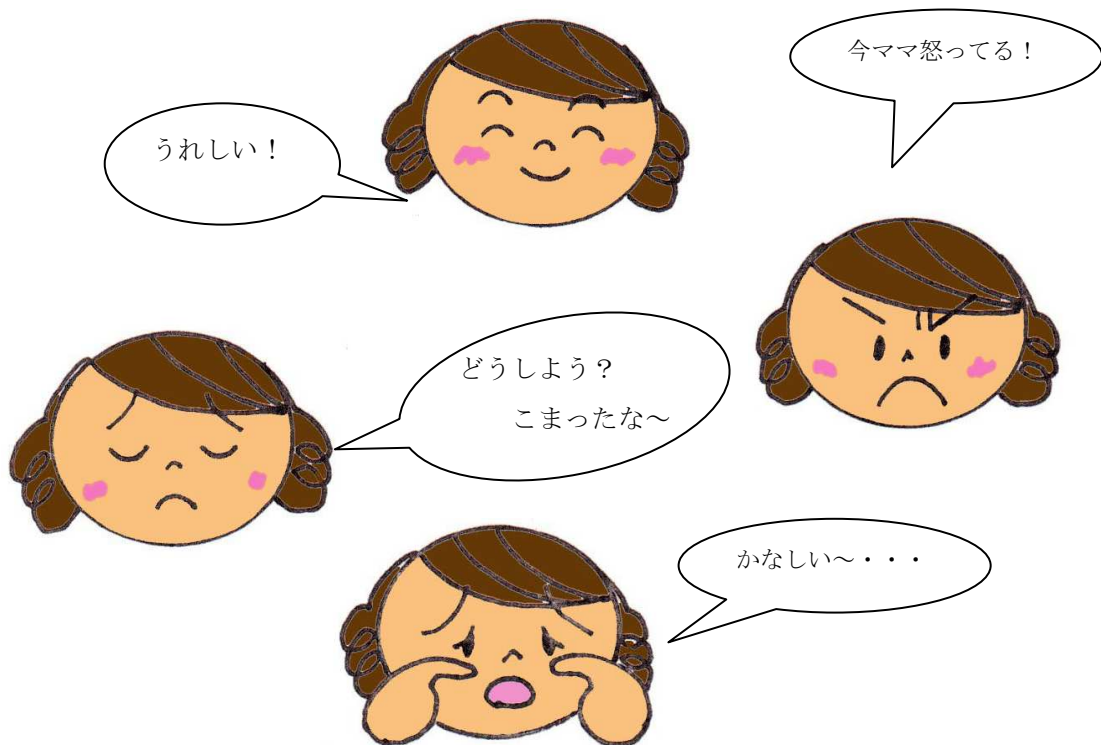
運動会の絵カードは2部作成し、1部は幼稚園（クラス担任）に持って来て下さり、練習中にも使用して欲しいと依頼された。母親と幼稚園の連携プレーもありすべての競技や演技に参加しA 児なりに頑張れた運動会であった。

●母親として努力されてきたこと

『怒るな！出来ないことではなく、出来ることは何か、どうすれば出来るようになるか考えるようにした。A 児は人の気持ちが理解できにくい所があるので、なるべく喜怒哀楽をオーバーに表現した。オーバーに表現することはとても疲れることではあったが、A 児が母親の顔を見ながら「ママ怒ってる？」「ママ悲しい？」と気持ちを聞いてくれるようになってきたことがとても嬉しい。』

『母親の見えない場所（幼稚園）での情報をクラス担任の先生から細かく聞くことによりその情報を心理士の先生に知らせ分析してもらい、次の手立てを教えて頂けたことが効果的で大変心強かった。』

『テンションが上がり始める前にストップをかけるようにする。大人の介入が、絶対に必要であることを強く感じている。今は自分と他人は違うことが理解できず、A 児にとって他人の間違った行為が許せず、その際、友達にいちいちかまいに行きたがり、トラブルになることが問題で、今後の課題である。』

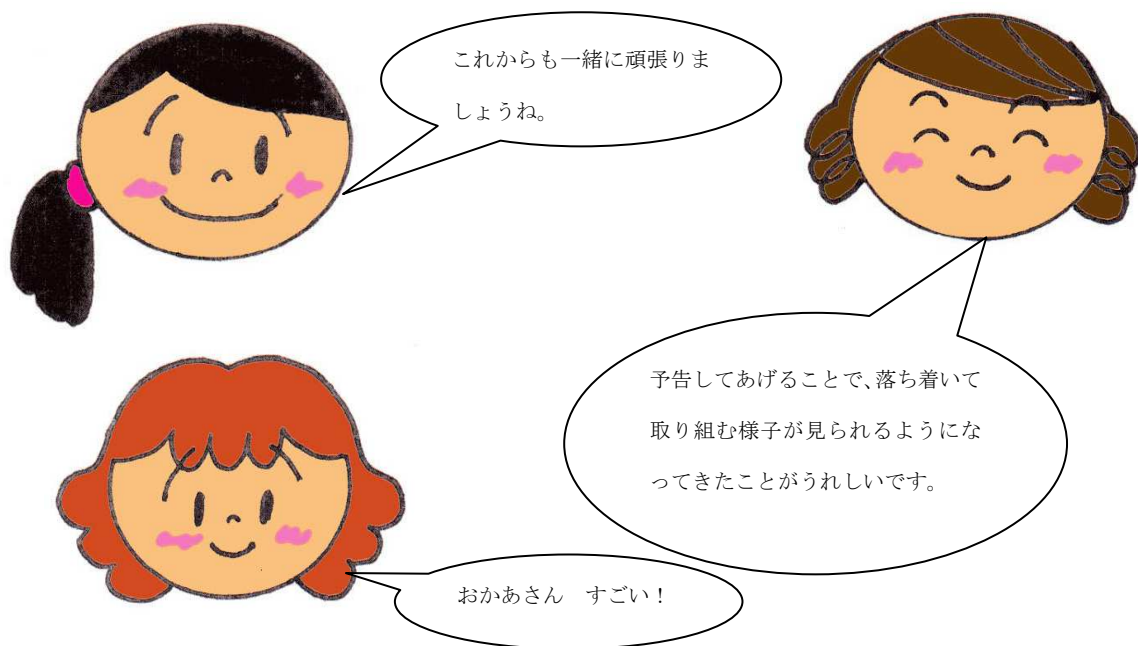


*気持ちの表情をはっきりわかるように心掛けた。

インタビュー後の思い

インタビューの最中、私たちは母親の言葉に何度もうなづき、「おかあさん凄い！」
「本当に努力されておられるのですね！」「A君の成長はおかあさん、あつてのことで
す！」と言葉をかけると、母親は、恥ずかしそうではありましたが、表情も生き生きと
輝き、とても嬉しそうにされておられました。

「おかあさん、私たちも協力するからね！一緒にがんばろうね！そして、このおかあ
さんの言葉や努力の成果を、今、子育てに悩んでおられる多くのおかあさんの参考にさ
せてくださいね。」の言葉に大きな笑顔で承諾を頂き、インタビューを終えました。



年長組の姿

年長組に進級。保護者から新しい保育室やクラス担任の予備知識を与えられていたためか「お～い！〇〇先生。」と話しかけてきたほどの余裕を感じました。しかし4月当初は、ウロウロと落ち着かず、寝転びながら本を見たり、立ちあがらなかつたり、自分の思い通りにならない時は「こら～！」「だめ～！」「うるさい！」と言って来たりすることがよくありました。

5月に入り弁当や給食時に泣き出すことが多くなり、暑さのせいかわ食欲もなくクラス担任が口へ運んであげると食べるが、自分からは進んで食べようとはしませんでした。

6月、中あてドッジボールでボールが取れないと怒って泣き出す場面が見られました。

7月、すばるホール（プラネタリウム）であたりが暗くなっても落ち着いて最後まで観ることができました。

2学期には、わがままな行動も少しずつなくなり、運動会、作品展と進んで参加することができ、りっぱな成果を披露できました。

就学に向け、三者〔母親・幼稚園・心理士〕での懇談を持ちました。そして幼稚園が橋渡しとなり、保護者は、教育委員会への相談や小学校の見学、校長先生との面談等を受け、心の準備に取り組んでおられます。

卒園後の姿

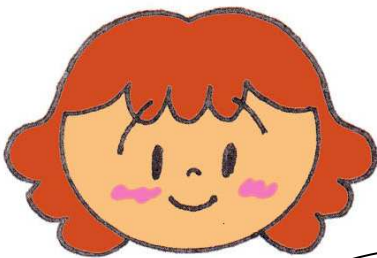
卒園から4ヶ月後、平成24年7月に偶然にも幼保小交流会「わくわく」がありました。夏ということもあって、園児と小学生と合同でプール遊びの時間です。来校してきた私たちにA児から声をかけてきてくれました。身長も高くなり、幼稚園児にやさしく声をかけたり、お世話をしてくれる姿が微笑ましく、また頼もしく思えました。

まとめ

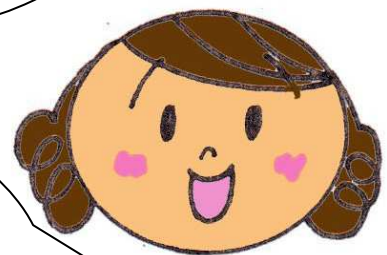
幼稚園生活の中で色々な人や環境とかかわることでG児は大きく成長してきました。しかしA児の成長の一番大きな要因は、母親の子どもを見る姿勢や見方が大きく変化、成長されてこられたことだと思います。母親が一途に子どものことを思い努力されてこられたこの3年間。私たち教師も母親と一緒にたくさんのことを学ばせて頂きました。これからもA児と共に日々努力される中、予想も付かない様々な困難に遭遇されることもあるでしょうが、A児と母親の明るい笑顔を見ていると、きっと頑張り、乗り越えられることと信じています。私たち教師も日々努力し、子どもたちと共に成長していきたいと強く思いました。



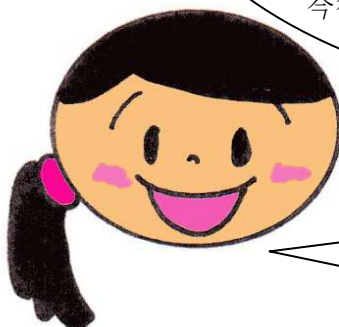
これからもサポート体制の
計画をしておけばいいですね。



小学校と連携をとりながら
支援を続けていけたら
いいと思っています。



支援を受けたことで私も
落ち着いて対応することが出来るよ
うになりました。
今後もよろしくお願いたします。



小学生になっても
お顔をみせてくださいね

A児の成長の記録

A児<男子>

	A児の行動	保育者のかかわりと援助	母親の姿と思い
入園前	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の時には部屋に入るが、見たものすべてを触ってまわり一通り、遊具にさわると、すぐにあきて場所を変える。 ・絵本に興味があるのか手当たり次第に出していく。 ・ベンチや舞台など高い所を好んで登り喜ぶ。 ・みんなと同じ行動は取れず、すぐに部屋から飛び出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の動きをみながら、危険なことや他に迷惑になる行動をとる場合には、さりげなく引き離すように配慮する。 ・言葉をかけたり、笑顔を向けたりしながら、注意を促すようにするが、無理な参加はさせない。 ・満3歳児保育の入園を希望されていたが、現状態では、無理であることを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体は大きいがまだまだ幼いだけ」と感じており、あまり意識はないようであった。 ・A児にかかわる姿や、追いかけてりする姿が少なく傍観的であった。 ・満3歳児クラスへの入園を熱望される。
年少組	<ul style="list-style-type: none"> ・入室せず園庭の遊具で遊ぶ。 ・クラス担任がかかわろうとすると手を払おうとする。 ・刺激のある遊びを好み、周りの反応を楽しんでいる。 ・動物に興味を持ち、紙芝居やカードなど動物の名前や形をみると興味を向けることができる。 ・水遊び、泥遊びは自分のしたいときだけ参加する。 ・友達から腕をかまれるが、痛いことを伝えられずにいた。 ・運動会の練習ではほとんど参加せず一人で遊んでいることが多い。 ・友達の側に行き、無理強いをして嫌がられたり怖がられたりする。 ・けがをしたときは痛い！と伝えられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A児専属のフリー教諭を付ける。 ・しばらくは行動範囲を把握するためにずっとA児について行動を共にする。 ・好きな動物の絵本を用意し、外に出ようとした時にはすぐに出して興味を引かせたり他のクラスにも好きな絵本を用意したりして安心できる場所を確保する。 ・クラス担任がA児の噛まれた跡に気付き、事件を知る。「相手は友達になりたい思いと焼きもちからA児の腕を噛んだこと」を保護者に伝える。 ・運動会当日は、途中から保育者の隣で参加させ、無理のないように配慮した。 ・少しずつ単語で伝えるように促す。 ・落ち着いている時には友達に声をかけて一緒に遊んでもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育や行事などもっとクラスのみんなと一緒に行動させてほしいと不満や要望を申し出る。 ・「家では動物の絵を描いた。」など家でできていることをしきりに担任にアピールしてくる。 ・A児は言葉で伝えられないのだから保育者はしっかり見守ってほしいと訴えられる。 ・クラスやクラス以外の人にA児がどのように写っているのかをとっても心配され「将来今のA児の姿を印象付けたくないの、なるべく目立たないよう配慮してほしい。」と申し出る。 ・保育者のA児への積極的なかかわりやA児のできる経験を増やしてほしいとの要望が出る。

	A児の行動	保育者のかかわりと援助	母親の姿と思い
年中組 1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室や友達になじめず、常に外の飼育小屋や廊下に出ていた。 ・絵本コーナーの前が落ち着く場所となり、保育室には入れないがその場所で過ごすことが出来、出て行くことが少なくなる。 ・集団の中に少しずつ入れるようになり自分の興味のある遊びには参加し、興味がない時は、絵本コーナーに行き、気持ちを落ち着けることができる。 ・プールが好きなので興奮しがちあり、興奮すると突発的に行きたい所やしたいことをする。 ・着脱の仕方や身の回りの始末が自分でできるように言葉がけをいくと、何度も聞きながらも助けを求めてくるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A児の様子を見ながら気持ちを受け止められるようフリー教諭と話し合いながらかかわっていく。 ・〇×カードを作り突然の行動に対処したり、良い行動や悪い行動を明確に知らせたりするために使用した。 ・癩癩をおこした時やルール違反をした時は×のカードを示す。 ・保育に参加できるように誘い参加できた時は大きく丸のポーズをして褒めるように心がけた。 ・所持品の片付け方や用意の仕方、晴れの日と雨の日の遊ぶ場所が違うことをカードで示す。 ・初めての経験や場所を絵や記号で知らせるようにした。 ・プールの中での約束ごとは繰り返し伝えると危険な行動をすることが少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気になる所はどこか。」「どんな場所へ行きたがるのか。」進級した頃の状態を熱心に質問される。 ・A児が参加できなかった理由を母親なりに考えられA児が理解（見通し）できるようにカードを作り、示してほしいと依頼される。 ・A児の得意なことや幼稚園で戸惑うことが何になのか熱心に聴かれ、家庭でも同じような経験ができるような場面を用意し、努力されるようになった。 ・懇談では、友達とのかかわり方を聞かれ、手伝ってくれたり遊んでくれたりする友達がいることを聞き、大変喜ばれていた。 ・長期の夏休みに入るので、今まで積み重ねてきたことが無二になり、環境の変化に戸惑うことがないかと心配されていた。
年中組 2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・できないことや自信のないことには「できない。」と気持ちを伝えることができるようになる。 ・使える言葉（語彙）が増え、気持ちや困った時の状況を保育者に伝えたり、問いかけられたりできるようになった。 ・運動会、午前の部では特に不安がる様子もなく、練習と同じように全競技に参加できた。 ・友達と一緒に遊びたい気持ちを上手に伝えることができず体当たりをしたり手で強く押したする行動が増えてきた。 ・自分の思い通りにならないと癩癩を起こしてしまう。言葉で伝えられない苛立ちが増えてきている。 ・思いを伝えたいためか、遊んでいる友達を押ししたり強く引っぱたりすることを繰り返すので注意すると「ごめんなさい。」と謝ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードがなくても身の回りの始末が出来るようになってきたので、明確な言葉で伝えるようにした。 ・運動会の練習を無理強いすることをせず、自由にさせながら参加している気持ちを大切にした。 ・踊る様子を見た時はしっかり誉めて自信付けをした。 ・運動会に参加できるよう並ぶ位置を繰り返し言葉やカードで示し知らせる。 ・「一緒に遊びたいの？」と尋ねると「うん。」と答えるので担任が友達に気持ちを伝え仲立ちとなり、一緒に遊ぶ楽しさを知らせていく。 ・素直に謝れることやクラスの子どもの成長もあり、A児が仲間はずれにならないで、クラスに受け入れてもらえていることを嬉しく思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のプログラム通りに絵カードを作り、日々家庭でも知らせ、見通しが付き、安心して参加できるようにと母親の努力されている姿が印象的であった。 ・クラスでの様子を担任から聞き、A児が素直に謝れることやクラスの子どもの成長もあり、仲間はずれになることもなく受け入れてもらえていることをとても喜ばれていた。

	A児の行動	保育者のかかわりと援助	母親の姿と思い
年中組 3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・劇に登場する役が気に入った時だけ練習に入ろうとする。 ・自ら「オオカミ」の役を選び、練習回数は自分で決めただけしかしかない。 ・合奏では、友達の前練習を見ながら大太鼓がしたいと自ら言うことができた。 ・合唱では、「僕はここ？」と確認しながら参加できた。 ・すもう大会の練習では、ルールが理解できず友達を押ししたり、自らマットから出てしまったりと、勝負にならないが、負けると大変不機嫌になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇遊びの流れが分かるようにA児の状態に合わせて無理のないよう誘うようにする。 ・劇の出番では、決まった友達の後ろに並んで登場するよう繰り返し伝え知らせる。 ・「今日は〇回する。」とAさんが決めた練習回数を守り、それ以上は強要しないようにする。 ・楽器も一通り触ったり遊んだりしながら他の楽器にも興味が持てるように配慮した。 ・練習、本番共に教師が側で付きながら援助をする。 ・合唱の立ち位置をシールで伝え、意識させる。 ・経験を通してながら絵カードを併用することで、不安になったり癇癪を起こしたりすることが少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習や日々の行動には、絵カードを使い、見通しをつけていくように強く要請される。 ・A児が戸惑うことがないように今後も絵カードを使い、視覚での援助を増やして欲しいと希望される。 ・年長組へ進級するにあたり担任との関わりが一番重要と考えておられ、年中組での指導の仕方で良かったことや続けて欲しいことなどを次のクラス担任へ十分伝えて欲しいと要求される。 ・年長組ではクラス担任が感情的に叱らないか、友達とのかかわりでいじめられないかと心配される。
年長組 1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・進級当初、自分の場所が決まるまでは、絵本コーナーや保育者の所へ来ることが多かった。 ・自分の思いが伝わらない時には大きな声で話しかけてくる。 ・年中、年少組からの決まった友達に自分の困った時や泣きたい時に助けてもらったり、同意を求めに行ったりしていた。 ・行動の順番を示したカードを見ながら、自分から行動できるようになる。 ・特に行事（参観前、運動会など）ではカードを見ながら、スムーズに進むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に座ることが難しいので、グループを作り、並んだり、座ったりする場所を決めると落ち着いて行動することができた。 ・わがままな要求をしてくることに教師が否定すると、叫んだり駄々をこねたりするので、一人にしてからゆっくり話を聞いて納得させるようにしている。 ・明日の予定を前日からカードで示しておくことで、何度も聞き直しに来ることが少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での見通しと園での活動内容が大きく違くと戸惑うことになるので、確認を十分取るようにされている。 ・子どもたちの活動等の話を聞き、それを絵に描いて説明し、また担任にも丁寧に伝えてくれる。 ・A児に対しては、園にはあまり要求してこなくなり、逆にクラス担任へ「どうしたらいいですか？」と一緒に考えてくれるようになった。 ・行事ごとに保育の内容や順番を伝えることで安心できると喜ばれた。